先進社会環境学専攻
オリエンテーション資料 1

令和 5 年 4 月 5 日

令和 5 年度
先進社会環境学修士セミナー（修士必修）実施要項
先進社会環境学博士セミナー（博士必修）実施要項

担当教員（教務担当）：高橋英志教授，渡邉則昭教授，柴田悦郎教授，坂口清敏准教授
（坂口清敏准教授がセミナーの主たる担当者）

授業要旨

先進社会環境学における修士論文研究に関連して国内外の重要な研究論文あるいは自己研究の背景や進捗状況を紹介し，討論することで，分野の研究動向と自己の研究の位置づけを明確にするためのセミナーを実施する。

セミナーの内容

・Ｍ１修士イントロダクション（発表 10 分，質疑 5 分）　評価者：教員 2 名

修士研究を行うにあたり、研究テーマの背景、既往の研究等をまとめ、修士研究テーマの当該分野での位置づけと国内外での研究の動向を発表し、討論する。

・Ｍ２中間発表（発表 15 分，質疑 10 分）　評価者：教員 2 名

修士研究の進捗状況について発表し，討論する。

・Ｄ１博士イントロダクション（発表 15 分，質疑 10 分）　評価者：教員 2 名

Ｄ1 で行った博士研究の成果を主体に発表し，討論する。研究の国内外の動向、テーマ設定やこれに関わるアイデアの提示など創意ある発表を期待する。

・Ｄ２中間発表（発表 15 分，質疑 10 分）　評価者：教員 2 名

博士研究の進捗状況について発表し，討論する。

セミナー実施日（実施時間は 13:00－16:10 を基本とする 12 月と 2 月は午前も OK）

学年	4 月入学	10 月入学	内　容
M1	11/2	2/22	修士イントロ
M2	7/6, 7/7, 7/13, 7/14	12/1	中間発表
D1	11/2	2/22	博士イントロ
D2	7/6, 7/7, 7/13, 7/14	12/1	中間発表

会場：エコラボ大会議室とエコラボ第４講義室　注）オンライン開催の場合有

＊4 月入学の M1, D1 セミナーは 11/2 頃（期日未定）開催の環境科学討論会への参加によって評価する。詳細については後日連絡。

セミナー実施上の注意事項

・教員評価者は所属研究室以外の教員とし，指導教員が選任する。
・発表言語は日本語もしくは英語とする。
・発表会は 2 会場並列で行う。
・自分の発表する会場の発表は全て聴き，全ての発表に対してコメント（所定の用紙）を記載する。このコメント用紙の提出をもって出席認定とする。
・セミナー準備担当研究室（世話役）の指示によりセミナーを実施する。
・発表方法および出席確認方法について変更の可能性あり。後日詳細を決定し連絡する。

セミナー準備担当研究室（下記の順番で繰り返す）

年度	対象学年	研究室	年度	対象学年	研究室
R5 2023	M2，D2（4 月入）	高橋(弘)研	R7 2025	M2，D2（4 月入）	柴田研
	M1，D1（4 月入）	上高原研		M1，D1（4 月入）	小俣研
	M2，D2（10 月入）	岡本研		M2，D2（10 月入）	福山研
	M1，D1（10 月入）	井上研		M1，D1（10 月入）	佐藤(義)研
R6 2024	M2，D2（4 月入）	川田研	R8 2026	M2，D2（4 月入）	環境政策学
	M1，D1（4 月入）	渡邊研		M1，D1（4 月入）	飯塚研
	M2，D2（10 月入）	高橋(英)研		M2，D2（10 月入）	加納研
	M1，D1（10 月入）	伊藤研		M1，D1（10 月入）	（未定）

単位認定

先進社会環境学修士セミナー（修士**必修**）

修士イントロダクション、M2 中間発表を行い，指導教員が正当と認めた者に対して修士セミナーの単位を認定する。本科目は出席を重視する。また必修であることに注意すること。

先進社会環境学博士セミナー（博士**必修**）

博士イントロダクション、D2 中間発表を行い，指導教員が正当と認めた者に対して博士セミナーの単位を認定する。本科目は出席を重視する。また必修であることに注意すること。

Ｍ１修士イントロダクションに関する補足説明

1.　趣　旨

研究が具備すべき２大要件として，”originality”と”priority”がある。つまり，誰もやってないことを誰よりも先に行うことが常に要求されるが，このためには過去に何が行われて，現在何が行われつつあるかを十分に理解することが重要である。修士における研究を行うにあたり，研究テーマの背景，目的，期待される成果，その波及効果，社会性，学問的展開，倫理性を十分に認識する必要がある。

「修士イントロダクション」では，具体的な研究データの提示ではなく，修士論文の第１章に相当する，下記のような内容を含んだ発表を期待する。

さらに他人の発表を理解し，討論，評価することも重要な要素である。

2.　内容

- 当該分野の背景，社会的要請
- 研究の目的
- 既往の研究
- 期待される成果
- 当該分野および関係学問分野への寄与

注 1）単一の外国論文の紹介を行うものではないこと。
注 2）論文紹介となる場合では，複数の論文をまとめて自分の発表に昇華すること。
　　論文は邦文，外国語論文を問わない。
注 3）修士研究のテーマが定まっていない場合には，現在自らが興味ある分野について発表すること。
注 4）卒業研究の延長にある場合には，卒業研究からの進捗が認められる内容とすること。

先進社会環境学専攻
オリエンテーション資料 2

令和 5 年 4 月 5 日

令和 5 年度
エコプラクティス

M1 の前期，後期で行う
担当教員：土屋教授，大庭准教授，中安助教

本授業は，対面による説明と，その後の自習（グループ活動）が主体となる．
受講希望者に対しては，5 月以降に改めて連絡する．受講希望者は，事前に土屋および大庭まで連絡すること．
noriyoshi.tsuchiya.e6@tohoku.ac.jp
masahiro.oba.b1@tohoku.ac.jp

授業概要

この授業は，環境制約下での社会活動，ビジネス展開の考え方について，地域活動を通じて，具体的に理解し，環境活動，起業展開についての実践的授業を行う．持続的かつ経済合理性を兼ね備えたビジネスモデルを考えるそのプロセスを学ぶ．

また，必要に応じて起業に必要な，知財，財務などに関する座学を行う（不定期に開講予定）．

授業の内容

次の時代を切り開く環境活動として，サステイナブルな技術を導入するだけでなく，二次生態系の保全や社会システム/人々の意識の変容も必要とされている．さらに，マクロな環境問題を解決するために，地域の生態系や個別事情をよく理解する必要があります．すなわち世界や国主体のトップダウン的な環境政策だけではなく，地域から始まるボトムアップ的な環境政策も重要であろう．

本講義では，地域で農業，林業，持続可能技術を取り入れ，実践的に環境問題にアプローチしている企業を訪問します．その企業と実践的に関わることによって，環境問題の解決をビジネスとして回すために，何が必要なのか？また，どのようなビジネスモデルを今後描けるのかについて探求する．特に，地域特性と地域資源に焦点を当て，それらを侵さない環境問題解決型のビジネスとは何かについて学ぶ．

協力団体
ＮＰＯ法人川崎町の資源をいかす会、合同会社 百

1. 地域の特性を知る。
2. 地域資源を見つめる。
3. 地域資源を生かす方法を考える。
4. 地域資源を使ったプロダクトを考える。
5. プロダクトの廃棄方法を考える。
6. 上記について経済として成り立つかについて考察。

不定期での休日を使った三日間の集中演習を予定しています。詳細な日程は，受講者と連携企業と協議の上決定いたします．最後に，地域での環境問題解決型ビジネスについて発表する．

【講義の日程】（場所：環境科学研究科本館　大講義室）
① 日時は履修登録者に後日通知する．
② 12 月に成果報告会を実施する．（日時は後日通知する）

実施上の注意事項
・各グループには世話人（教員）をつける．

先進社会環境学専攻
オリエンテーション資料３

令和５年４月５日

令和５年度
修士インターンシップ研修
博士インターンシップ研修

実施要領

対象学生：原則として M1，D1
期間：　５日間～１ヶ月程度，原則として７月末～9 月末の間で実施する（5 日間：1 単位，10 日間以上：2 単位）。
インターンシップ終了時にはレポートを提出する。

・インターンシップ研修による公欠は認めない。
・選択科目であるが，強く参加を勧める。
・インターンシップ先は指導教員と相談のうえ，公募等を利用して各自積極的に探してほしい。
・インターンシップの内容については，インターンシップ前に専攻副主任にも相談すること。（インターンシップ研修履修届には、指導教員に加え副主任の押印が必要である。）
・社会人 Dr の学生は，以下から１つ選択し研修する。

① RESD 学生の日本での世話人を引き受ける。
【RESD プログラム】：清華大学（中国）、同済大学（中国）、KAIST（韓国）、POSTECH（韓国）、京都大学、東北大学大学院環境科学研究科からなる合計３カ国、６大学部局によるプログラム。（Regional Environment and Sustainable Development Certificate Program）
②自社で受け入れたインターンシップ学生の研修に対応する。
③その他

インターンシップとは何か

インターンシップとは，企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことである。国際化・情報化の進展，産業構造の変化など，日本の社会経済の変化に伴って，企業内での能力主義の徹底等，雇用慣行を取り巻く環境や求められる人材が変わってきている。こうした状況の中，人材育成の核となる大学等においては，産業界のニーズに応える人材育成の観点も踏まえ，創造的人材の育成を目指して教育機能の強化に努めているが，その一環として，産学連携による人材育成の一形態であるインターンシップが注目されている。一定の期間

中に１つのプロジェクトを完成させること，他の人間との接触をもちながら仕事を進めることなど，社会において必要とされる能力に磨きをかける機会としてほしい。

<u>インターンシップの意義と目標</u>

(1) 教育－社会のリンクの改善・充実

アカデミックな教育研究と社会での実地の体験を結びつけることが可能となる。大学で学ぶことが如何に社会で活かされるかを学んでほしい。

(2) 高い職業意識の育成

自己の職業適正や将来設計について考える機会となり，主体的な職業選択や高い職業意識の育成が図られる。また，就職後の職場への適応力の向上にもつながる。

(3) 自主性・独創性のある人材の育成

企業等の現場において就業体験を積み，専門分野における高度な知識・技術に触れながら実務能力を高めることは，自主的に考え行動できる人材の育成にもつながる。また，企業等の現場において独創的な技術やノウハウ等がもたらすダイナミズムを目の当たりにすることにより，新規産業の担い手となる独創性と未知の分野に挑戦する意欲を持った人材の育成にも資する。

インターンシップに関する問い合わせ先

先進社会環境学専攻・コース　副主任
高橋英志教授（hideyuki.takahashi.c2@tohoku.ac.jp）
渡邉則昭教授（noriaki.watanabe.e6@tohoku.ac.jp）
柴田悦郎教授（etsuro.shibata.e3@tohoku.ac.jp）